

COLUMN
大学教育の今

転禍為福？

3年間にわたって我々を翻弄してきた新型コロナウイルスとの付き合いもようやく大きな転機を迎えることになった。政府によって、GW明けに新型コロナの感染症法の位置づけを季節性インフルエンザと同等の5類感染症に移行することが示され、マスク着用も各自の判断に任せるものとされた。学校においても文部科学省の通達(小中高については明言し大学についてもそれにあわせるようにといった感じ)で4月の新学期からはマスクなしの生活(卒業式に関しては前倒しで)が認められる。3年前の当たり前に戻るはずなのに、キャンパスがどんな様子になるのが明確にイメージできずもどかしく思っている。

さて、このコロナ禍において、確かに我々は、多くの制約を受けて多くのものを失ってきたといえよう。その一方で、その制約の中でこそ、今まで当たり前とってきたことの価値を再認識し、また様々な可能性を手に入れることができたようにも思う。大学を含め時間と空間を共有することの重要性が前者の最たるものであり、ICT(Information and Communication Technology: 情報通信技術)による時間や空間の融通化などが後者の例であろう。この両者は、一見すると相反するようであるが、実際のところ、親和性はかなり高いようにも思われる。例えば、障がいのために教室で受講できない学生に対してメタバースを活用することにより空間の融通性さらには空間の共有も実現できるように思われる。大学教育におけるDXが謳われているが、学生の学びに対する保障はどのように変化すべきか、さらには大学教育に携わる我々の意識をどのように変化させなければならないのか、コロナ禍の経験を無駄にしないようにしっかりと考えていきたいものである。

学習支援・教育開発センター 所長 岡田 幸宏

2022年度スタッフ一覧

所長 岡田 幸宏
准教授 宮田 尚子
澤 宏司
助教 趙 智英
矢内 真理子
アカデミック・インストラクター 大谷 紗也加
寺島 紀衣
専門調査員 深尾 友理恵
事務長 瀬川 真理
係長 鎌田 大輝
係員 鈴木 梨加
平岩 佐知子
樫 舞

同志社大学
学習支援・教育開発センター レポート
CLF REPORT
Center for Learning support and Faculty
development report

「シーエルエフ レポート Vol.34」
同志社大学 学習支援・教育開発センター レポート

発行日: 2023年3月31日

発行者: 同志社大学 学習支援・教育開発センター
京都市上京区今出川通烏丸東入 明德館1F

[Tel] 075-251-3277 [Fax] 075-251-3025

[E-mail] ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp

https://clf.doshisha.ac.jp/

CLF

同志社大学
学習支援・教育開発センター レポート
REPORT

Center for Learning support and Faculty
development report

Vol.

34

2023.3

CONTENTS

ページ

02 開催報告

新任教員研修会

TA研修会

SD研修会

FD研修会

04 各学部等FD活動報告

(文学部、生命医科学部、ビジネス研究科)

大学入学準備講座

05 2022年度部会活動報告

教育方法・教材開発費制度について

教育開発調査活動費について

06 2022年度学生調査報告

08 ラーニング・コモンズ運営状況

12 2022年度スタッフ一覧

Column 大学教育の今

学習支援・教育開発センター設置の趣旨

本センターは、本学における全学的な学習支援施策の企画及び実施、
全学的な教育施策の企画及び開発、
教育活動の継続的な改善の推進及び支援により、
大学教育の充実と発展に寄与することを目的として設置されています。

開催報告

新任教員研修会

本学教員として教育・研究活動に従事するうえで必要な基本的事項について理解していただくことを目的として、毎年度新任教員研修会を実施しています。2022年度は感染防止対策を行ったうえで、対面で実施し、新任教員約50名の参加がありました。また、後日オンデマンド配信も行いました。

日時 4月2日(土) 13:00~16:30
開催場所 良心館201教室

内容

- ①ガバナンス、意思決定の仕組み
- ②キリスト教主義と建学の精神
- ③教育活動
- ④グローバル化の取組み
- ⑤学生支援体制
- ⑥研究活動
- ⑦入学試験業務
- ⑧教育・研究倫理について

各所管の機構長、所長等から説明いただきました。



受講者の声

同志社の全体像を把握することができた。

学生指導及び対応について、わかりやすくお話しいただけてよかった。

建学の精神から、現在のあり方まで、分かりやすく知ることができた。

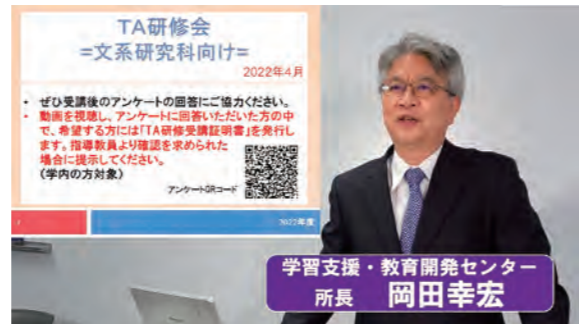
各種倫理について知ることができ、大変勉強になった。

TA研修会

ティーチング・アシスタント(TA)に任用される大学院生(予定者を含む)を対象として、研修会を2011年度より実施しています。2022年度は昨年度に引き続きオンデマンド配信にて実施しました。

内容

- TA制度の定義・目的
- TAの業務内容
- TAの心得
- キャンパス・ハラスメントの防止
- TAの事務手続きについて
- 勤務にあたって(注意事項)など



研修会動画・資料は下記サイトで公開しています。

TA研修会 <https://clf.doshisha.ac.jp/ta/ta.html>

SD研修会

データにもとづく学習成果の把握と教育の自己点検 —学生調査データ、教務情報を用いた多面的なアセスメントの事例—

部長、館長、所長、学部長、研究科長、大学評議員等を対象とした、SD研修会を実施しました。研修会では、教学IRをテーマとし、学生調査や教務情報などの学内にあるデータを使って、学生の学びの状況や学習成果を把握している学内外の事例を紹介しました。教学IR活動の重要性や今後の展望、課題などについて共有することができました。

日時 2022年7月4日(月)、7月7日(木) ※両日とも同一の内容を実施
開催場所 至誠館、真義館、Zoom



FD研修会

2022年度は本学教職員を対象としたFD研修会を以下のとおり実施しました。なお、開催した全てのFD研修会の様子は録画し、後日学内向けにオンデマンド配信しました。

動画収録・配信システム「Panopto」説明会

2022年秋学期より本学で導入した新たな動画収録・配信システム「Panopto」について、基本的な利用方法を導入業者のご担当者さまにご説明いただきました。授業や業務説明、広報活動など、様々な場面で動画を活用しているため、教員・職員ともに関心が高く、当日は約60名の参加がありました。ノートパソコンを持ち込み、説明を聞きながら実際に操作する教員もおられ、具体的な活用方法を見据えた様々な質問が出ていました。

日時 2022年9月14日(水) 13:00~14:30
開催場所 対面:(今出川)良心館103教室(京田辺)情報メディア館401教室
※テレビ会議システムを利用し、今出川の映像を京田辺に同時配信

授業へのアクセシビリティを考える ~誰もが「平等」に「参加」できる授業を目指して

2022年度「諸君ヨ、一人一人ハ大切ナリ」同志社大学 SDGs 研究プロジェクトに採択された「誰アクP」(「誰ひとり取り残さない」アクセシビリティを考えるプロジェクト)いろいろでの取組である、オンラインの技術を取り入れた、誰もが「平等」に「参加」できる授業づくりに関する実践例として、「バーチャル教室」、「分身ロボット」その他の「アバター」を用いた授業を紹介していただきました。研修会後半ではそれぞれの操作体験の時間も設けられました。

当日は、今出川の会場に、京田辺にいる阪田先生の分身ロボットを、京田辺の会場には、今出川にいる梶山先生の分身ロボットを用意し、遠隔地にいる人が、ロボットを介してリアルな空間に参加する様子を見ていただくことができました。また、バーチャル教室については、実際にこのシステムを利用した授業の様子や、使用感について具体的なエピソードを添えて報告いただきました。

日時 2022年10月19日(水) 17:00~18:30
開催場所 対面:(今出川)良心館107教室(京田辺)夢告館101教室
オンライン:Zoomによるリアルタイム配信

UDフォントから始めるダイバーシティ推進 ~読み手の立場で伝わりやすさを考える~

2022年9月より、同志社大学の文書作成要領が改訂され、学内において業務上作成する文書(※一部文書は除く)の書体がUD(ユニバーサルデザイン)フォントを用いることになったことに伴い、UDフォントを使った伝わるプレゼン資料の作り方について研修会を行いました。講師として、フォント作成を行っている株式会社モリサワで、実際にUDフォント開発にも携わってこられた同社の高田裕美氏をお招きし、書体の役割や意味、UDフォントの開発秘話なども交えながら説明をしていただきました。Zoomによる開催でしたが、クイズなども取り入れながら意見を出し合い、積極的に参加する形の研修会となりました。教員・職員合わせて約50名の方に参加いただき、多数の方に満足いただける研修となりました。

日時 2022年11月4日(金) 17:00~18:30
開催場所 オンライン:Zoomによるリアルタイム配信

2025年、こんな学生が入学してきます! —新学習指導要領と中・高等学校教育の現状—

中学校では2021年度より、高等学校では2022年度より新学習指導要領に基づいた新しいカリキュラムがスタートしています。それに伴い、奥野先生からは、学習指導要領の変遷や新しい学習指導要領で何が求められているのかを、田中先生からは中学校・高等学校の教育現場から見えてきている現在の中学生・高校生の特徴についてお話しいただきました。2025年には、高等学校でアクティブラーニングやICTを取り入れた授業を受けてきた学生が入ってくることで、それに合わせて大学の授業にも工夫が求められるのだということを知ることができました。また、SNSの存在やコロナ禍での学生生活によって、人間関係の形成や、価値観なども大きく変化していることも分かり、非常に有意義な研修会となりました。

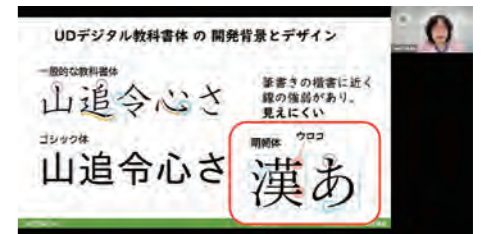
日時 2022年12月12日(月) 16:40~18:10
開催場所 対面:(今出川)良心館107教室 オンライン:Zoomによるリアルタイム配信



【共催】情報支援課
【講師】パナソニックコネクト株式会社



【講師】梶山玉香先生(法学部教授)
阪田真己子先生(文化情報学部教授)



【共催】ダイバーシティ推進委員会
【講師】株式会社モリサワ 高田裕美氏



【共催】免許資格課程センター
【講師】奥野浩之先生(免許資格課程センター准教授)
田中希穂先生(免許資格課程センター教授)

学部・研究科・センター等FD活動報告

それぞれ取り組んでいるFD活動の一部を紹介します。

文学部

文学部では例年、所属教員を対象としてFD研修会を開催しており、2022年度は、9月7日の教授会開催前に、法人内4高校から5人の教諭を講師に招き、「学習指導要領改訂の要点、高校での取組みについて」をテーマとした研修会をZoomを利用して開催した。2020年度は小学校、2021年度には中学校、そして2022年度から高等学校で新学習指導要領に基づいたカリキュラムがスタートしており、新たなカリキュラムによる学習を経験してきた2022年度入学の高校1年生が大学に入学する2025年度に向け、大学の入学試験、カリキュラムについて対応が求められるものと想定される。研修会では、冒頭、①新学習指導要領の概要について解説いただいた後、各担当教諭から、②新学習指導要領に係る各高校の対応、③新学習指導要領に係る大学(文学部)への要望等について講義いただき、新学習指導要領による授業への生徒の反応、高校側から大学側への要望などについて活発な質疑応答がなされた。当学部の入学試験、カリキュラムのあり方について再確認、検討を進めるうえで非常に有意義な機会となった。

生命医科学部

生命医科学部・生命医科学研究科では下記のFD活動を行った。まず、2022年度初めの教授会に所属教員が全員参加し、カリキュラム・ポリシーおよびディプロマ・ポリシーの再確認を行った。次に、7月13日に生命医科学部FD研修会を行った。小國隆輔弁護士(弁護士法人小國法律事務所)をお招きし、「いま押さえておくべきパワー・ハラスメントの基礎知識」という内容について研修を行っていただいた。すでに聞き慣れたキーワードになっているが慣れることなく真摯に対応することが重要である。また、生命医科学研究科FD研修会として、7月27日に情報企画課情報ネットワーク係から、「情報教育環境リブレース2022の変更点 多要素認証の利用拡大について」の研修を行っていただいた。このFDでは、学部長から教育機関の認証、情報セキュリティのこれまでとこれから、ゼロトラストシステム、導入すべき技術、認証の強化等についての概要説明も行った。2022年度は、学部内にFD企画WGも設置した。今後も活発に学部・研究科のFD活動を行う予定である。

ビジネス研究科

世界ではイノベーション等の進化スピードは加速し、ビジネス研究科(通称DBS)の教員には実務と理論、双方からの教育、研究能力が求められる。そのためDBSでは出身母体の異なる教員の専門性と多様性を基礎にした独自のFD活動を設計してきた。また近年DBSが取り組んでいる国際認証評価を意識しつつ、教員の高度な研究能力の向上と教育と研究のシームレス化をFD活動の目標に加えた。欧米のビジネススクールの新しい優れた経営視点は、確固たるアカデミックベースの理論を背景に持つ研究者から生まれる傾向が強い。そこで従来の授業展開、ケーススタディのあり方等の教育メソッド以外に、教員の学術発信の高度化を目的としたFD研修会を開始した。教員の研究能力の資質の向上はそのまま教室での視点の高さの基礎となる。教育メソッドの基礎に研究能力を持つことで、最先端の研究をしている教授陣から教育を受けたいとする学生の期待に応えることにもなる。

大学入学準備講座

各講義の概要等、詳細を掲載しています。

大学入学準備講座 https://clf.doshisha.ac.jp/preparation_course/course.html

高校生を対象に、大学における必要な学力レベルを知ってもらうこと、正しい学部選択の機会を与えることを目的とし、「大学入学準備講座」を開講しています。本学教員がそれぞれの専門分野で扱う学問の内容から高校生が興味を持ちそうなテーマを選んで、大学で実際に行われる授業と同じ形式で高校生に講義を行っています。

2022年は3年ぶりに対面で開催し、48校から多くの高校生にご参加いただきました。また後日オンデマンド配信も行い、36校から視聴の申込がありました。



対面開催の様子



オンデマンド配信の様子

😊 受講者の声

いままで勉強したことがどのように使えるのか少し理解できて興味深かった。

高度な内容でしたので、高校での学習が必要不可欠だと身をもって感じました。

高校と違い、専門的な内容の講義で、自分の学びたいことをここまで詳しく学べるのは凄く楽しそうだと思います、大学がとても楽しみになりました。

大学の授業の様子を高校生の間に知ることができ、とても良かったです。

志望学部の授業を受けることができ、将来へのイメージがより一層深まりました。

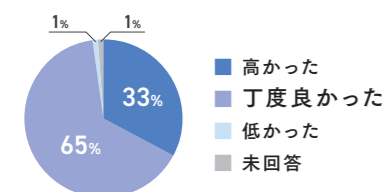
今後、どんな分野を自分が研究したいかも考えて受験をしようと思いました。

講座一覧

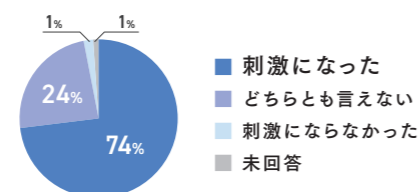
- 講座①(社会学部) 自分のために社会福祉を学ぼうーこれからの人生に備えるためにー
- 講座②(政策学部) SDGsをどのように地域づくりや政策立案に活かすのか?
- 講座③(スポーツ健康科学部) スポーツに関わるみんなで考える「スポーツの指導」
- 講座④(グローバル・コミュニケーション学部) 中国、そのかたちーグローバル世界と現代中国
- 講座⑤(理工学部) いま、あなたも発電していますか?
- 講座⑥(生命医科学部) ヒトの健康、疾患を「理学」の目を通して考える!
- 講座⑦(神学部) 戦争とキリスト教ーウクライナ危機を考えるために
- 講座⑧(グローバル地域文化学部) 植民地主義の歴史から考える「グローバル」と「地域」
- 講座⑨(文学部) 戦国時代の日本語文法ーことばで起きた下剋上?!
- 講座⑩(経済学部) 都市とは何かー近代京都のインフラ整備事業を通じて考えるー
- 講座⑪(法学部) 児童虐待と刑事法
- 講座⑫(商学部) ビジネススキルとしての簿記・会計の実践と役割
- 講座⑬(心理学部) 心理学でおいしく健康に食べるには
- 講座⑭(文化情報学部) 数理モデルとは何かー数学を通して見る社会現象・文化現象ー

アンケート結果

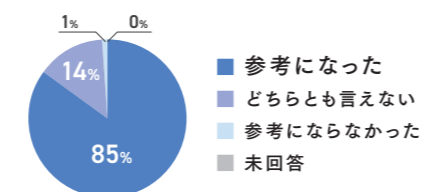
Q.講義のレベルはいかがでしたか?



Q.講義の内容はこれからの高校における勉強の刺激になりましたか?



Q.将来志望する学部を選択する際の参考になりましたか?



2022年度部会活動報告

FD支援部会

● 設置の趣旨

教育内容、授業方法の改善を推進するとともに、教育効果に関わる全学的な企画の検討を行うことを目的として設置しています。

● 活動報告

今年度の本部会は、昨年度までの部会のあり方を見直し、新規の取組みや大きな見直しが必要となる事項について議論を行う場として開催しました。まず、昨今の高等教育の動向について、中央教育審議会の「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」や「教学マネジメント指針」により理解を深め、第4期の機関別認証評価も視野に入れた、本学の取り組むべき課題について、部会委員の間で共通認識を持ちました。

「学生による授業評価アンケート(以下、授業評価アンケート)」について、昨年度の教務主任およびFD支援部会委員に対して実施したアンケート結果を基に、現状の問題点と今後の改善すべき点について議論を行いました。主に、回答者個人が特定される可能性がある点について、回答率を上げる方法について、結果の組織的な活用について、大学院科目での実施について、アンケートの調査項目について、これら5点について議論しました。部会での意見を踏まえ、今後の授業評価アンケートの実施方法や調査項目等について、検討を進めます。

「シラバス」について、2023年度のシラバス作成方針を検討した他、他大学の事例も参考にしつつ、現状のシラバスの問題点や改善すべき点、2024年度からの新たな学年層に対応したシラバスについて議論を行いました。新たな学年層に対応したシラバスを2024年度に公開するためには、2023年度中にシラバスシステムの改修を完了する必要があるため、重点的に議論しました。2023年度のシラバスについては最小限の変更に留めますが、2024年度のシラバスについては、授業計画欄の変更や、授業で取り入れるアクティブラーニングの記載欄の追加などを予定しています。

「カリキュラムマップ(以下、マップ)」と「カリキュラムツリー(以下、ツリー)」の整備について、他大学の事例も参考にしつつ議論を行い、マップについては共通フォーマットを作成することになりました。今後、全学的なマップとツリーの整備を進める予定です。

「教育方法・教材開発費」については、今年度はA区分に1件、B区分に1件、計2件の申請がありました。今年度より、新たに教務主任による予備審査の過程を加え、本部会での段階的な審議を経た上で、最終的にA区分1件の申請が採択候補となりました。

その他に、同志社大学学習支援・教育開発センター年報投稿規定の廃止について審議を行いました。

学習支援検討部会

● 設置の趣旨

本学における学習支援活動および学習支援環境(ラーニング・commons等)の運営方法を検討することを目的として設置されています。

● 活動報告

本部会では、ラーニング・commons(LC)の入室者、各エリアの利用者数、学習相談件数、学習支援コンテンツへのアクセス状況、アカデミックスキルセミナーの開催状況等について報告し、それをもとにラーニング・commons(LC)の運営について意見交換を行いました。部会委員からは、プレゼンテーションコートを以前のように学生の研究発表などイベント会場として利用したいのご意見をいただきましたが、新型コロナウイルスの感染状況等を勘案し、2022年度中についてはLC内でのイベントの開催を控えることにしました。

なお、感染防止のため減らしている両校地LCの座席数を、今年度は学内の教室定員が緩和されたことに伴い、できる限り多くの学生が利用できるよう、可能な範囲で増やしました。また、良心館LCのインフォダイナーについては、一部を双方向オンライン授業優先席としていましたが、グループ学習席の利用希望が多く、10月末より全席をグループ学習席に変更しました。学習相談やアカデミックスキルセミナーについては、昨年同様、対面とオンラインを併用しながら行いました。次年度も状況を見ながら、より多くの学生にLCを有効に活用してもらえるよう、利用制限の緩和も含め検討してまいります。

教育方法・教材開発費制度について

本学における授業改善をさらに促進するために、専任教員を対象として、新たな教育方法および教材開発に必要な費用全般を補助する「教育方法・教材開発費制度」を設置し、毎年度秋学期に次年度の開発費の申請を受け付けています。2023年度はこの制度を利用して以下の取組みが行われます。

開発テーマ	申請者
「日本のメディア学読本」(仮題)の開発	勝野 宏史(社会学部)

※開発区分にはA区分(50万円以下の補助)とB区分(200万円以下の補助)があります。

制度の利用を希望される方は、右記詳細をご覧ください受付期間に申請をお願いします。

教育方法・教材開発費制度 <https://clf.doshisha.ac.jp/support/development/materials.html>

本制度を利用して開発された教材の一部は、本学オープンコースウェア上で公開しています。

同志社大学オープンコースウェア <https://clf.doshisha.ac.jp/opencourse/opencourse.html>

教育開発調査活動費制度について

本学の教育の質的向上のための積極的な調査活動を支援するために、専任教職員を対象として、教育開発に関する各種学外企画の参加に必要な旅費・参加費等の費用補助を行う制度を設けています。補助対象となる催しはメーリングリスト及び、以下のページで紹介しています。

メーリングリストへの登録を希望される場合は学習支援・教育開発センター事務局までご連絡ください。

本制度の詳細を掲載しています。

研究会・研修会のご案内 <https://clf.doshisha.ac.jp/research/research.html>

教育開発調査活動費制度 <https://clf.doshisha.ac.jp/support/action.html>

2022年度実施の学生調査

本学では、学生調査を実施し、学生たちが本学での学びにどのように取り組み、受けとめているのかを調べて、学習成果、教育効果を測定・評価するとともに教育プログラムや教育研究環境をより一層充実させることを目指しています。当センターでは、学生の学びや成長を手がかりとして、本学の教育の特徴を客観的に把握し、本学における教育活動の自己点検・評価および教育改善を推進するうえで欠かすことのできないデータを組織的に収集、分析するため、学生調査の企画・実施にも取り組んでいます。

2022年度は大きく2つのことに取り組まれました。第一に、1年次対象の「入学時調査」をスタートさせました。「入学時調査」の目的は、大学入学以前に身につけた能力・スキルの自己評価や高校での学習経験、学習習慣などを調べ、新入生の特徴を把握することにあります。第二に、1～3年次対象の学修行動調査の調査枠組みについて見直しました。学生の回答負担を軽減するために従来の調査項目を整理し、正課教育に関する調査項目の比重を以前より大きくしました。同時に、調査名を「キャンパスライフに関するアンケート調査」から「学びの実態調査」に改称しました。

上記の2つの調査に、2020年度にスタートした卒業年次の学部学生対象の「『学びのふり返り』卒業時調査」を加えた3種類の学生調査を組み合わせることで、学生調査データにもとづいて、「入口から出口まで」大学在学中の学びの状況や学生の成長実感を把握できるようになりました。



2022年度の各種調査の実施概要



入学時調査

調査対象 2022年度春学期入学の学部1年次

実施方法 WEB調査
(学内LMS「e-class」)

回答期間 2022年4月13日(水)～28日(木)

有効回答 4,559件・71.2%



調査結果の掲載サイト▶

学びの実態調査

調査対象 2022年度学部1～3年次

実施方法 WEB調査
(学内LMS「e-class」)

回答期間 2022年11月1日(火)～22日(火)

有効回答 1年次 1,697件・26.4%
2年次 1,037件・16.7%
3年次 812件・13.6%



調査結果の掲載サイト▶

「学びのふり返り」卒業時調査

調査対象 本調査を実施する学部の2022年度学部卒業生

実施方法 WEB調査(Microsoft Forms)
一部の学部は質問紙調査を併用。

回答期間 卒業論文提出時期～卒業式当日

*本調査の実施主体は各学部のため、実施の有無、実施方法、回答期間などの概要の詳細は学部ごとに異なる。



コロナ禍の3年間で、大学での学びや生活実感はどのように変わったのか？

新型コロナウイルスが世界中に広がって丸3年。この間、社会状況だけでなく、大学教育の方法や学生生活も大きく変化しましたが、本学では学生たちの正課内外の学びの機会を確保、拡充するために、さまざまな取組を検討、展開してきました。最初の緊急事態宣言を受けて、本学では2020年度春学期開講科目を原則、ネット配信授業(オンライン授業)で実施しました。授業のオンライン化は非対面での教育を可能にした一方で、多くの学生が毎回授業で出される課題の負担感に苦しみ、同じ授業を受ける学生同士のつながりが感じられず孤独や孤立を深めるといった問題も生み出しました。本学では、コロナ禍における学びや生活の実態について学生たちから生の声を集めるため、臨時学生調査を実施。調査結果は、教員のあいだでの課題量の見直しや調整をはじめとして、大小さまざまな教育施策や支援策につながりました。2020年度秋学期以降も感染拡大の「波」にさらされながら、本学ではオンデマンド配信授業などインターネットを活用した授業を併用しつつ、対面授業を可能な限り増やしてきました。また、社会状況をふまえながら、課外活動についても制限を緩和し、2022年度現在、多くのサークル・クラブが活動を再開しています。

コロナ禍で得た経験や教訓を活かしながら、大学における学びと学生生活が学生たちにとってより充実したものになるように、本学ではさまざまな支援策を進めてきましたが、コロナ禍の3年間、学生の日常生活の過ごし方やその受けとめ方はどのように変化したのでしょうか。ここでは、本学の学修行動調査である「学びの実態調査」とその前身である「キャンパスライフに関するアンケート調査」の結果にもとづいて、1～3年次の各種活動に費やした時間や、授業の受けとめ方、生活実感についてみていきます。

調査結果を見ると、週平均の授業外学習時間は、それ以前と比べて2020年度に急増しましたが、2020年度から2022年度にかけては微減傾向にあります。一方で、アルバイトやサークル・クラブ活動の週あたりの平均時間は、2019年度からコロナ禍に入った2020年度にかけて急激に落ち込みましたが、2022年度においては2019年度以前の水準に回復しつつあります(図1)。

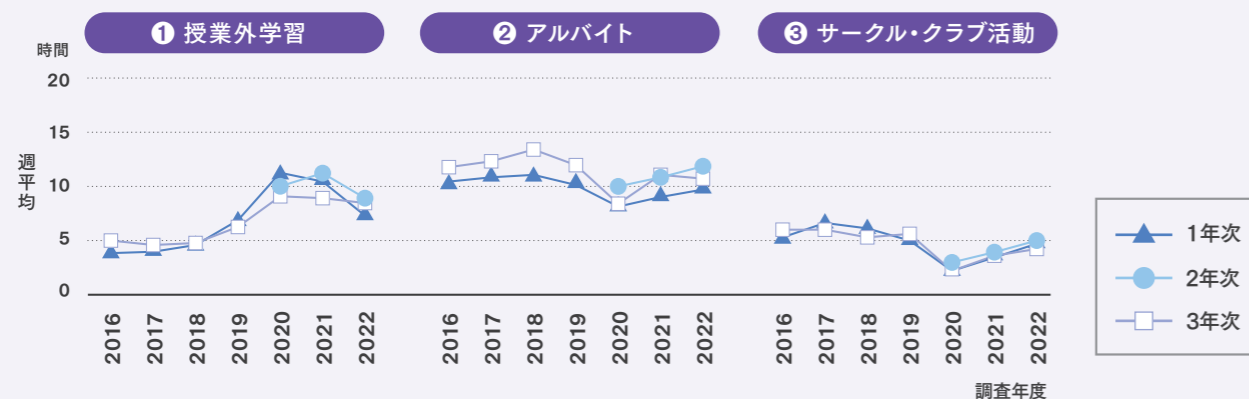


図1 授業外学習や課外活動の週平均時間

一見すると、授業外学習時間の減少は問題に見えるかもしれませんが、しかし、2020年度以降、授業の受けとめ方は学年にかかわらず好転しています(図2)。学生たちの[A]授業参加実感(「自分が授業に参加している実感できている」)は大幅に上昇しており、[B]課題量の負担感(「各科目で提示される課題の量が多い」)は減少しています。さらに、[C]勉強について「消化不良」と感じる学生の割合(「教材・資料や動画をもとに課題をこなすだけで、全体のつながりを把握する力や、内容を掘り下げの力が身についたという手応えは希薄だった」)も減っています。このように、課題の負担感の減少と連動して、「学びの手応え」が高まっていることがよみとれます。たしかに、適切な授業外学習時間を確保し、授業で学んだことを知識・能力として定着させるために授業課題や宿題を課すことは有効です。しかし、負担感が大きくなりすぎると、課題をこなすことだけが目的化してしまい「授業で何を学び、何が身についたのか」を学生自身が実感しづらくなることが、この結果からはうかがえます。

生活実感の変化をみると、この3年間で[D]計画的に学習を「遂行」できているという実感(「自分なりに計画を立てて、勉強や研究に取り組んでいる」)は高まっておらず、2年次ではむしろ低下しています。この結果は、コロナによる活動制限が緩和されるとともに、課外活動が再開し友人とのつきあいが活発化するなど、学業以外の活動にも打ち込む学生が増えてきたことが関係しているのかもしれませんが、[E]日常生活の充実感(「心から打ち込めることや好きなことに夢中になれる時間が、今の生活のなかにある」)はこの3年間、上昇しています。また、2020年度には4～5割の学生が[F]孤立感(「ほかの人たちから、孤立しているように感じる」)を抱えていましたが、2022年度には3割前後にまで減少しました。このように、授業に対して肯定的に受けとめる学生が増えるとともに、「ひとりぼっち」であるような感覚をもつ学生は減り、充実した生活を送っている学生が増えているようです。

依然として新型コロナウイルスは収束していませんが、学生たちは「課題地獄」から解放され、「ニューノーマル」な大学での学びに慣れ、課外活動にも取り組み、学生生活を満喫している様子がよみとれます。

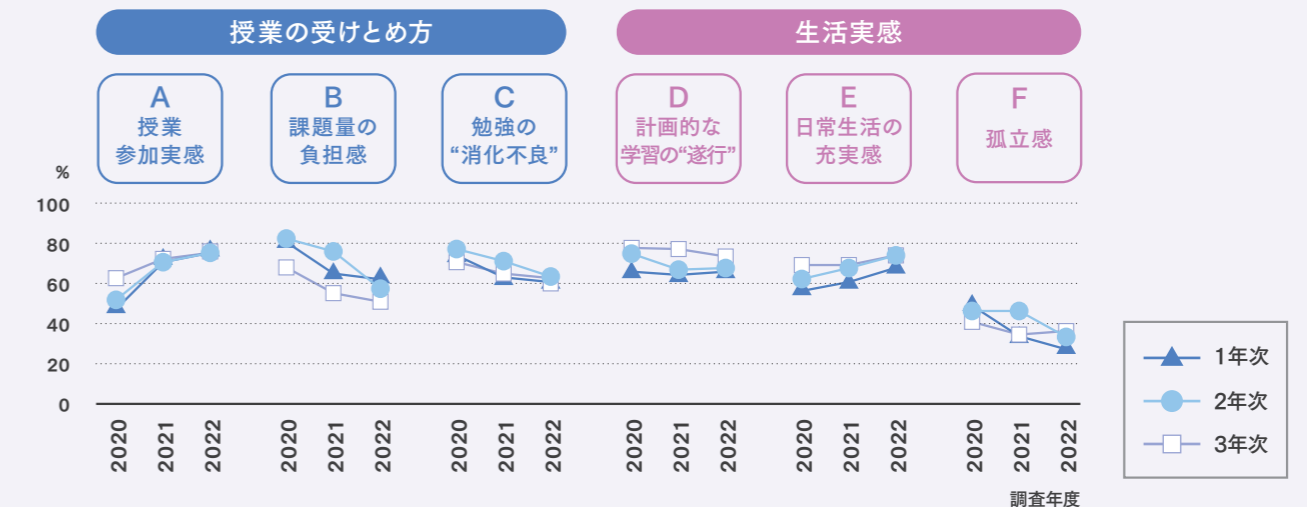


図2 大学の授業の受けとめ方と生活実感

ラーニング・commons活動状況

新型コロナウイルスの感染防止対策として、両校地とも大幅に座席数を減らしていましたが、2022年度より学内の教室定員が緩和されたことに伴い、ラーニング・commons(LC)もできる限り多くの学生が利用できるように可能な範囲で座席数を増やしました。学習相談や、セミナー・各種イベント等については、オンライン開催も継続し、対面・オンライン両方の良さを取り入れながら、安定的な運営を行うことができました。引き続き学生に必要な学習の場を提供し続けられるように努めています。

開催報告

良心館ラーニング・commons LC利用案内ツアー

LCを実際に案内し、利用方法やルールなどLCに関する疑問に答える利用案内ツアーを実施しました。

- 日時 2022年4月13日(水)～5月13日(金) ※4月29日～5月5日を除く
- 曜日 火曜日・水曜日・金曜日
- 時間 11:30～12:00/15:45～16:15 ※各回同じ内容



ラーニング・commons出張相談

LCのアカデミックサポートエリアのスタッフや、ラーニング・アシスタントによる、学びに関する相談ブースを、期間限定で開設しました。

良心館LC

- 期間 〈春学期〉2022年4月5日(火)～4月7日(木) 11:00～15:00
〈秋学期〉2022年11月8日(火)～11月22日(火) 13:30～16:00
※11/11、11/14を除く平日のみ
- 場所 良心館1階教務センター前



ラーネード記念図書館前

ラーネード記念図書館LC

- 期間 〈春学期〉2022年4月4日(月)～4月6日(水) 11:00～15:00
- 場所 ラーネード記念図書館前



良心館 教務センター前

アカデミックスキルセミナー

春学期はオンライン授業の受け方や、レポートの書き方、情報検索の方法などをテーマにセミナーを実施(全31回)し、秋学期はより具体的なレポートの書き方に加え、卒業論文や卒業研究に関連したセミナーを実施(全21回)しました。また、留学生向けに、日本語でのレポートやメールの書き方をテーマにしたセミナーも行いました。過去に行ったセミナーの一部は、LC公式YouTubeチャンネルでオンデマンド配信も行っています。

- 期間 12:30～13:00(各回30分)
- 開催方法 〈春学期〉対面または双方向リアルタイム配信(Microsoft Teams)
〈秋学期〉対面または双方向リアルタイム配信
(Microsoft TeamsもしくはInstagramによるインスタライブ)



日本語ライティングサポート夏のスペシャルWEEKS!

本学に在籍する外国人留学生(学部生・大学院生)を対象に、日本語の文法、文型、文章構成についてアドバイスを行う期間限定イベントを開催しました。

良心館LC

- 期間 2022年7月12日(火)～7月28日(木) 13:10～16:25(3・4講時)
- 曜日 火曜日・木曜日
- 場所 良心館LC アカデミックサポートエリア(3階)

ラーネード記念図書館LC

- 期間 2022年7月12日(火)～7月28日(木) 14:55～16:25(4講時)
- 曜日 水曜日
- 場所 ラーネード記念図書館LC ラウンジ(1階)

※原則対面相談(海外からの場合はオンラインでの相談も可) ※原則日本語での対応

TOPICS

ラーニング・アシスタント(LA)の活動

LA研修

LA春期研修

- 今出川(対面)
 - 日時 2022年3月25日(金) 11:00～16:30
 - 場所 良心館401教室

- 京田辺(対面)
 - 日時 2022年3月23日(水) 13:00～17:00
 - 場所 情報メディア館101教室

- オンライン
 - 日時 2022年3月28日(月) 13:00～15:30
 - 開催方法 Microsoft Teams

LA秋期研修(秋学期任用LA対象)

- 日時 2022年9月8日(木)11:00～13:00
- 場所 良心館LC アカデミックサポートエリア

主なLA登壇イベント

commonsランチ会(対象:本学学生・大学院生・教職員)

学生が、ランチタイムに若手研究者でもあるLAと気軽に交流する機会を提供することを目的に、2020年度からはじまりました。トークテーマは毎回LAが企画しています。

テーマ:レポートに「思う」を使わないのはなぜか

- 日時 2022年5月12日(木) 12:20～13:00
- 場所 良心館302教室/オンライン(Microsoft Teams)

テーマ:院生が語る「数学どこで使うねん!」

- 日時 2022年5月17日(火) 12:20～13:00
- 場所 ラーネード記念図書館1階ラウンジ/オンライン(Microsoft Teams)

ますびた!オンライン(対象:本学学生)

数学の面白さについて共有する、アクティブ・ラーニング形式の数学勉強会です。昨年度計12回開催された「ますびた!オンライン」の番外編として、本年度も参加者みんなで対話をしながら議論を進めました。

テーマ:解法プロセスの考え方

- 日時 2022年7月19日(火) 12:30～13:00
- 場所 オンライン(Microsoft Teams)

その他

LAの卒論体験談シリーズ

LAの卒論体験談や執筆のコツ、アドバイスをまとめ、良心館LCにて掲示しました。この卒論体験談シリーズはLC公式Instagramにおいても公開しています。

LA秋期研修

- 今出川(対面)
 - 日時 2022年10月3日(月) 14:30～16:30
2022年10月6日(木) 10:30～12:30
2022年10月14日(金) 15:00～17:00
 - 場所 良心館LC アカデミックサポートエリア

- 京田辺(対面)
 - 日時 2022年10月3日(月) 15:00～17:00
2022年10月4日(火) 10:30～12:30
2022年10月6日(木) 10:30～12:30
 - 場所 京田辺LC ワークショップルーム

LA特別研修

[テーマ]学生相談における対応のヒント

[講師]本学カウンセリングセンター専任カウンセラー

- 日時 2022年11月25日(金) 18:00～19:15
- 場所 良心館103教室、Microsoft Teamsによるリアルタイム配信



テーマ:大学での学びを120%楽しむために

- 日時 2022年5月25日(水) 12:20～13:00
- 場所 良心館302教室/オンライン(Microsoft Teams)

テーマ:情報ってナニ?

- 日時 2022年12月8日(木) 12:20～13:00
- 場所 良心館206教室/オンライン(Microsoft Teams)

アイデアの交流会(対象:本学学生・大学院生・教職員)

理系や文系に関わらず、自分の考えたこと・思いついたことなど、様々なアイデアを分かりやすく発表、ディスカッションし、新しい「学び」と「出会い」をつくることを目的としたフリーアイデア発表会です。

- 日時 2022年7月22日(金) 15:00～15:40
2022年7月29日(金) 15:00～15:40
- 開催 オンライン(Microsoft Teams)

学習相談利用状況

2022年度は、2021年度に引き続き、良心館ラーニング・commons(良心館LC)とラーネッド記念図書館ラーニング・commons(ラーネッド記念図書館LC)での対面の学習相談と、おうち De LC ポータルによるオンラインでの学習相談を実施しました。

2022年度と2021年度の相談者数を比較すると、対面での相談者数は両校地ともに増加しました。良心館LCは603人から215人増えて818人(前年比135%)に、ラーネッド記念図書館LCは1229人から375人増えて1604人(前年比130%)でした。一方でオンラインの相談者数は31人から6人減って25人(前年比80%)でした。

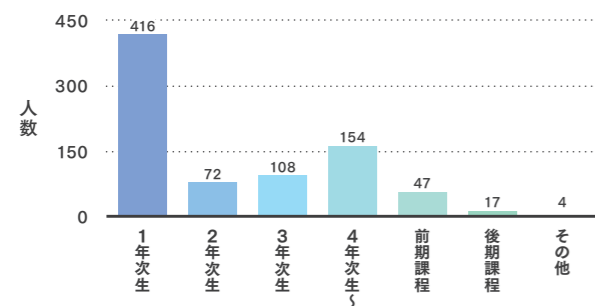
相談内容において、最も多い相談をみていくと、良心館LCは「レポートの書き方」(311件)、ラーネッド記念図書館LCは「特定の科目の学び方」(1295件)、おうち De LC ポータルも「特定の科目の学び方」(16件)でした。この傾向は3地点とも2021年度と同様です。

2021年度に比べて2022年度はさらに対面での相談が増加し、利用者数はコロナ禍以前の状況に戻りつつあります。その中でもオンライン相談は校地を超えた相談や、遠方からの利用もあり、一定の役割を果たしました。2022年度も3地点での相談を実施でき、コロナ禍を機にさらに学習相談は進化したと言えるでしょう。

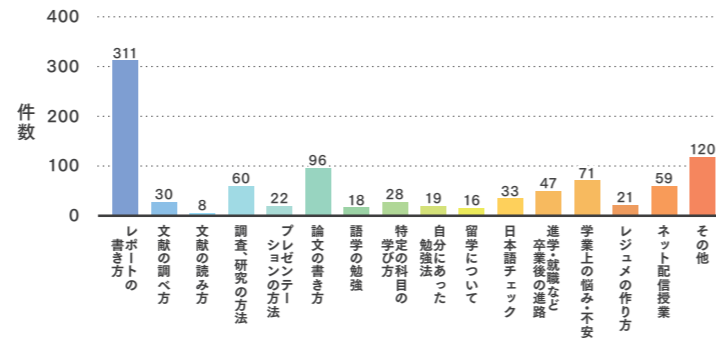
良心館ラーニング・commons

2022年4月1日～2023年1月31日(2022年8月10日～8月31日、11月28日、2022年12月27日～2023年1月9日休止)

学習相談受付(学年別) 総人数818人



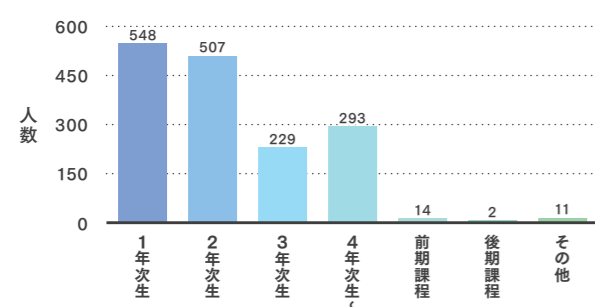
学習相談の内訳 総件数959件



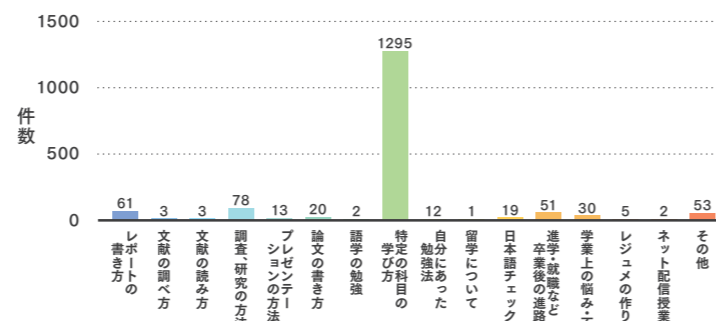
ラーネッド記念図書館ラーニング・commons

2022年4月1日～2023年1月31日(2022年8月10日～8月31日、9月9日、11月28日、2022年12月27日～2023年1月9日休止)

学習相談受付(学年別) 総人数1604人



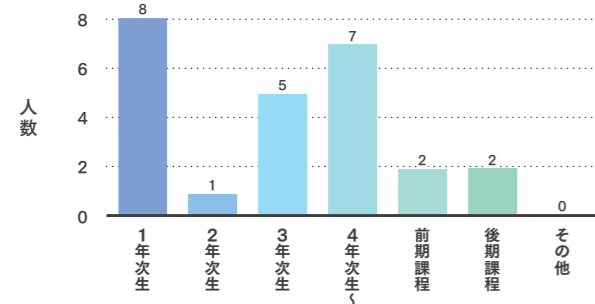
学習相談の内訳 総件数1648件



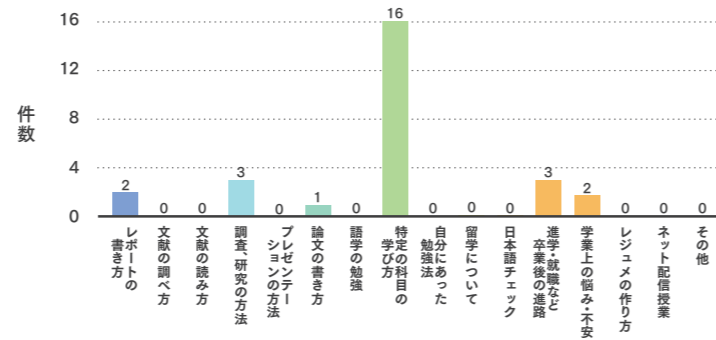
おうち De LC ポータル

2022年4月1日～2023年1月31日(2022年8月10日～9月22日、11月28日、2022年12月27日～2023年1月9日休止)

学習相談受付(学年別) 総人数25人



学習相談の内訳 総件数27件



施設利用状況

良心館ラーニング・commons(LC)全体の2022年度各月の利用者数状況をまとめたものが下のグラフ(図1)です。2022年度も引き続きコロナ禍ではあるものの、対面授業の増加に伴い大学構内に賑わいが戻ってきたことや、オンライン授業数の減少に伴いLC2階の双方向オンライン授業優先席を本来のグループ学習用座席としての利用に戻したこともあり、夏期休暇中以外は学生が年間を通して盛んにLCを利用していることがわかります。また、例年通り、新入生が利用最多となる月が多く、大学ならではの空間を存分に活用している様子うかがわれます。

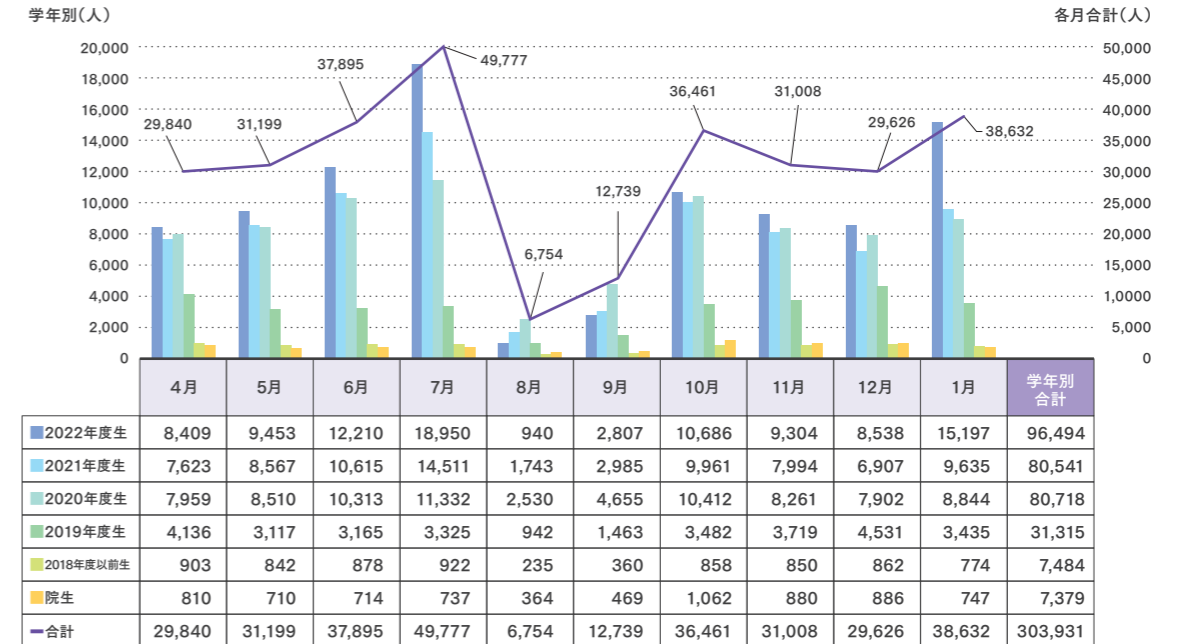


図1 良心館ラーニング・commons2022年度各月の利用者数状況

そして、コロナ禍が始まった2020年度から今年度2022年度までの利用者数を比較したものが下のグラフ(図2)です。2020年度は、緊急事態宣言を受けて閉室していた期間があり、年間で8万人に届かない利用者数でした。2021年度は京都府において二度にわたって緊急事態宣言が発令されましたが、開室などのLC運営自体に影響はなく、2020年度比約250%の約20万人の利用がありました。そして、今年度2022年度は、緊急事態宣言が発令されることなく、政府による全国旅行支援が実施されるほどに行動制限が緩和されたこともあり、2021年度比約160%の約30万人の利用があり、2020年度比では実に約400%の利用者数となりました。

LCは、さまざまなヒト・モノ・コトと出会い発話可能な自習空間を特長としてきましたが、コロナ禍下ではヒトと距離をとり、発話禁止での利用を強いられるを得ませんでした。そのような窮屈であろう環境下であってもLCを利用する学生がここまで順調に戻ってきたことは、学生にとって必要不可欠な施設であることがうかがわれます。

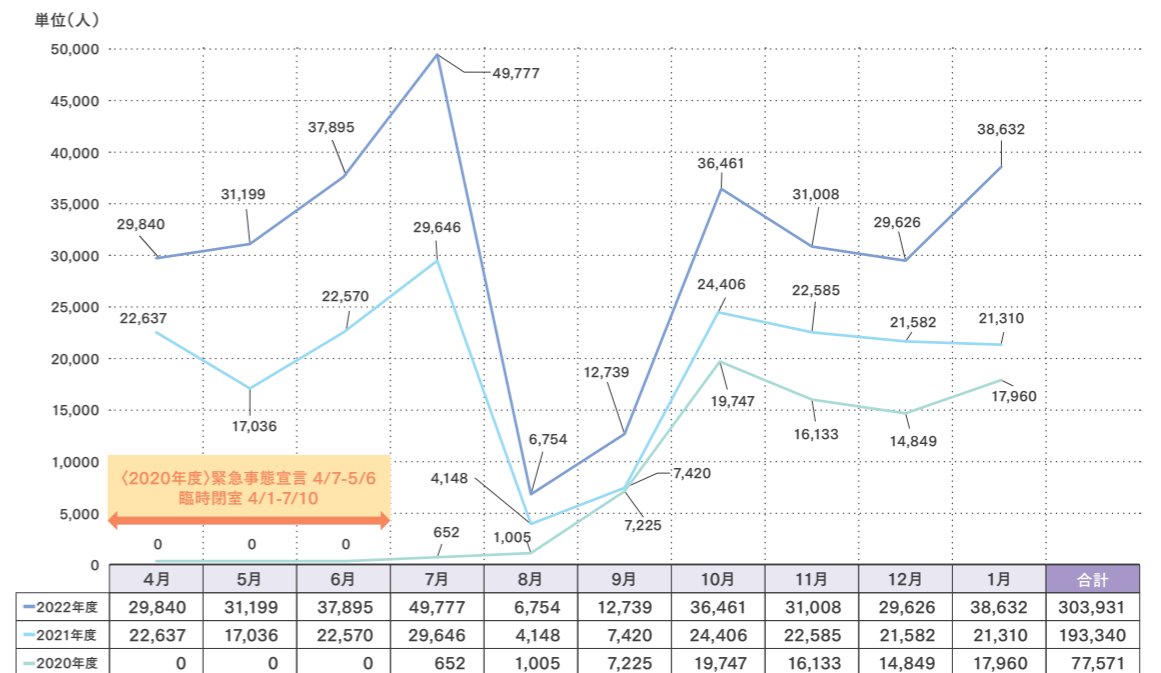


図2 良心館ラーニング・commons2020年度から2022年度までの利用者数の比較